

LMcorsa

60

● H.YOSHIMOTO

● S.KOHNO

SUPER GT 2020 Race Report Fuji Official Test

6月27-28日 | 天候：晴/雨(晴) | コース：富士スピードウェイ | 路面：ドライ→ウェット→ドライ

TEST Days Summary

約3ヶ月の中断を経て2020年シーズンのSUPER GTが始動

LMcorsaは、開幕戦前の第2回公式テストはドライとウェットコンディションで
周回を重ね、ノントラブルで想定していたメニューを消化

TEST Days

新型コロナウイルス（COVID-19）の蔓延によって大規模イベントやプロスポーツなどの開催が延期や中止になる中で、SUPER GTの2020年シーズンも大きな影響を受けることになった。また国内で新型コロナウイルスの感染者が急増する前だったために、3月14日（土）-15日（日）に岡山国際サーキットで実施された第1回の公式テストは無観客の状況だったが開催された。しかし、2週間後の3月末に予定されていた富士スピードウェイでの第2回の公式テストは直前で中止となり、4月から行なわれるはずだったシリーズ戦も延期となっていた。



5月末には全国に発せられていた緊急事態宣言が解除され、各プロスポーツも無観客ではあるがシーズンの予定を公開。SUPER GTも6月に入り今季の新しいスケジュールを発表した。開幕戦は7月18日-19日に富士スピードウェイで実施され、11月末までに当初の予定通りとなる8戦が組まれることとなった。ただ、競技参加者等の移動中の感染リスクを低減されることを目的とし、開催サーキットが富士スピードウェイ、鈴鹿サーキット、ツインリンクもてぎの3箇所に絞られることとなった。また、来場者やチーム関係者等の感染リスクを低減するために、全戦での無観客を想定していることもアナウンスされている。

いよいよ開幕するSUPER GTの2020シーズンを前に6月27日（土）、28日（日）の2日間に亘って、第2回の公式テストが富士スピードウェイで実施された。

TEST Days

2日間ともに、午前と午後に2時間ずつのセッションが設けられ、合間には今シーズンから採用することとなったFCY（フルコースイエロー）やセーフティカーの手順を確認するトレーニングも行なわれた。

LEXUS RC F GT3 を使用し6シーズン目を迎えるLM corsaは、第2ドライバーとして若手の河野駿佑選手を新たに起用。監督は飯田章氏、第1ドライバーは吉本大樹選手と変わらない布陣で、2020年シーズンを戦うことになっている。

公式テストの初日となった27日（土）は梅雨時期ながらも雨は降らず、陽は射さないもののドライコンディションでスタートした。セッション1の開始時間の10時になるとGT500クラスの15台とGT300クラスの28台がコースイン。SYNTIUM LMcorsa RC F GT3には吉本選手が乗り込み、まずは3カ月ぶりに走行するマシンの状況を確認し周回を重ねた。序盤には予定していたセットアップ変更を行なうためにピットインとアウトを繰り返す。併せてタイヤの確認など、想定していたメニューを順調に消化。セッションの最後には河野選手がSYNTIUM LMcorsa RC F GT3に乗り込み、2人のドライバーで計38周を走行した。

予定では14時から2時間となっていたセッション2だが、翌日が雨の天気予報となっていたためにスタートが30分早まり、終了時間も30分延長された。セッション1は吉本選手が中心のテストだったが、セッション2は河野選手がSYNTIUM LMcorsa RC F GT3に乗り込む。途中でトラブル車両を回収するためにセッション中断はあったが、河野選手は予定していたロングランのメニューを順調にこなしていく。終盤に吉本選手が4周ほど周回するが、それ以外は河野選手が走行し、計62周を周回。1分38秒042がベストタイムでGT300クラスの28台中16位のポジションとなった。

第2回公式テスト2日目の28日（日）は予報通りの雨で、セッション3の開始時間は10時となっていたが、雨量が多かったために30分遅れてのスタートとなった。第1回の公式テストでのレインタイヤを履く状況はあったが、3月とは気温や雨量がことなるため良いテスト機会となった。まずは、吉本選手がSYNTIUM LMcorsa RC F GT3に乗り込み5周を走行。ピットに戻ると河野選手にバトンタッチする。ウエットコンディションの走行経験が少ない河野選手だが徐々にラップタイムを伸ばしていき、タイミングモニターの上位にSYNTIUM LMcorsa RC F GT3が映し出される。終盤には再び吉本選手がステアリングを握り約10周を走行、最後は雨量が少なくなったが1時間半のウエットコンディションでのテストをトラブルなく走り切った。

午前中は降雨によってウエットコンディションとなったが昼過ぎには雨が上がり、最後のセッション4はスリックタイヤを履けるまで状況が好転した。セッション4も河野選手が中心のロングランテストが実施され、ピットインとアウトを繰り返しながら順調に想定したメニューを消化。途中で吉本選手が8周を走行するが、それ以外は河野選手が担当しほぼ1レース分となる計62周を走行した。

約3カ月ぶりの走行となった第2回の公式テストは、想定していたメニューをトラブルなく消化し、今シーズンから装着するミシュランタイヤの特性を引き出すセットアップを見出すために多くの時間を費やした。開催時期やサーキットなど変則的なシーズンとなるが、LM corsaはチーム一丸となって2020年のシリーズを戦っていく。

Team Comment



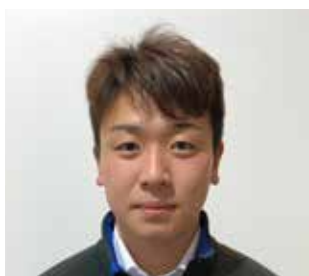
Director :飯田 章

まずは現在の状況下で色々な配慮のもと、公式テストができたことが良かったです。テスト内容としては、予定通りのメニューを消化させ、開幕戦に向けてトラブルなくマシンやタイヤの状況は確認できました。3月の公式テストとは気温やコンディションが異なるので比較できませんが、現状は知ることができたと思います。開幕戦までは時間が少ないですが、今持っているものを最大限に引き出すように仕上げたいです。今シーズンは富士スピードウェイでの開催が多いので、シリーズのカギになります。粘り強く戦っていければと思っています。



Driver :吉本 大樹

徐々にチームとして集まれて嬉しかったとともに、充実したテストができたと思っています。2日間でしたが、ドライとウエットの両コンディションで周回が重ねられて、今シーズンから履くミシュランタイヤの特性なども理解度が深まりました。3月の公式テストよりはライバル勢との差が詰まったように感じますが、それでもまだ差があるので、開幕戦までにできる限りのことをしなければなりません。富士スピードウェイは得意とは言えませんが、状況が噛み合えば昨年のスプリントカップのような結果ができるので、万全の準備をしていきます。



Driver :河野 駿佑

久しぶりに乗ったGTマシンでしたが、他のマシンのテストやトレーニングも行っていたので不安はありませんでした。今回のテストは想像以上にロングランを担当させてもらって、このマシンとミシュランタイヤの特徴を掴めたと思っています。ウエットコンディションでの走行ではまだ詰めるところもありますが、ライバル勢に遜色ない性能を発揮できたと感じています。開幕戦に向けては今回のデータを確認しながら、RC F GT3の長所を伸ばし、ウイークポイントを少しでも削れば上位で戦えるはずで

